

春告草

第164号 令和元年12月18日 進路指導部発行

ラストセンターへ55.8万人が出願 昨年比1.9万人減 ↓
現役志願率も昨年より0.7ポイントダウンの43.3% 大学入試センター発表

センター試験としては最後の実施となる令和2年度大学入試センター試験の確定志願者数が発表された。これによれば、既卒生等を含めての志願者総数は55.8万人（対前年度1.9万人減）。このうち高等学校等卒業見込者は45.2万人（対前年度1.3万人減）で、志願者全体の81.1%を占める。卒業見込者でセンター試験に出願した者の割合（現役志願率）は43.3%と2年続けて減少した。

現役生中心の大学入試状況が続いているが、油断は禁物である。反対に勉強がはかどらないと悲観することもない。勉強すればするほど未解決の問題が現れてくるものだ。まだ勉強が足りなかったのかと焦りを感じる時があるかもしれないが、勉強とはそういうものだ。反対に本試験前に「勉強が足りなかったところが発見できてラッキー！」と捉えよう。不安を感じているのは決して君だけではない。ゴールはもうすぐだ。

センター試験まで一ヶ月
頑張れ五期生！

Immer viel Zeit haben. Solange Sie es gut verwenden.
 時間は常にたっぷりある うまく使いさえすれば
 Johann Wolfgang von Goethe

センター受験票届く いよいよ大学入試に向けて臨戦態勢

「センター試験受験票」が学校に届いた。近々6年生に交付するが、きちんと保管し、同時に配付された「受験上の注意」をしっかりと読み込んで準備しておこう。5年生は「新テスト元年」の受験で不安もあるだろうが、手続きなどに大きな変更はない。「予習」のつもりで、情報をinputしておこう。

試験会場は一橋大学など5大学

センター試験は、地歴・公民、理科の科目選択別に会場が振り分けられる。今年は右表に示した5大学である。

受験票を受け取ったら、試験場名と試験場コード、所在地、道順、開門時刻などを確認しておこう。問合せ大学の電話番号は試験日前と試験日とで異なる。以上は受験番号などと一緒にメモを取っておこう。写メでもよい。

試験場の下見は必須である。大学が年末年始の休業に入る前にでかけ、校内の様子も見ておきたい。

センター試験当日の注意など

1 所持品について

○よいもの 黒鉛筆(H, F, HBに限る。和歌・格言などが印刷されているものは不可)、鉛筆キャップ、シャープペンシル(メモや計算に使用する場合のみ。黒芯に限る。)、プラスチック製の消しゴム(カバーに文字が印刷されているものは外して使用する)、鉛筆削り(電動式、大型のもの、ナイフ類は不可)、時計(辞書、電卓などの機能があるもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものなどは不可)、メガネ、ハンカチ、ティッシュペーパー(袋、箱から中身だけを取り出して使用)、目薬。(以上は試験時間中、机の上に置くことが許可されている。)

×いけないもの そろばんや電卓、グラフ用紙、定規、コンパスなどの補助具は不可。スマートフォンや電子辞書、ICレコーダーなどの電子機器は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってカバンなどにしまう。

■本校生徒受験会場

大学名(受験者数)	最寄り駅など
東京学芸大学(44)	JR 国分寺駅下車徒歩20分バス便あり JR 武蔵小金井駅よりバス便あり
一橋大学(15)	JR 国立駅南口下車徒歩10分
東京経済大学(37)	JR 国分寺駅南口下車徒歩12分
明治薬科大学(34)	西武池袋線秋津駅下車徒歩12分
津田塾大学(19)	西武国分寺線鷹の台駅下車徒歩8分

試験場は受験パターンで5つに分かれた。昨年と同じ会場だ。大学が冬休みに入る前に会場の下見しておこう。使用する教室は分らないが、一度行っておだけでも当日は落ち着いて行動できるはずだ。

学問する醍醐味を体感した二日間 大学模擬講義を終えて

今年も11月12日、14日に恒例の大学模擬講義が行われました。両日とも、それぞれ8大学から先生方を招いて大学における研究の一端をお話ししていただきました。講義をいただいた先生方からは、熱心に聴いてくれたとの感想をお聞きしましたが、参加した生徒のみなさんは講義から何を感じ、何を学び取ったのでしょうか。

4年生、5年生はいずれか1つの受講が必須でしたが、両日とも参加したいという希望が多くありました。志望大学がリストにあるからと受験勉強の忙しい中、6年生の参加もあり、延べ366名が二日間にわたって16の講座に参加しました。講義内容については春告草第158号に詳しく掲載されていますが、実際に参加してみた皆さんの感想はどうだったのでしょうか。今年度も二日間とも参加する生徒が多かったようですが、それでも「出たい講義が同じ日に重なっていて出られなかったから、複数回やって欲しかった」「もう少し受けられる日を増やして欲しかった」というような意見も数多く聞かれました。任意参加した6年生が講義を大変盛り上げてくれた、とも聞きました。いずれも三鷹生の好奇心の旺盛さ、勉強熱心な姿勢のあらわれでしょう。講義のあとの皆さんの記録やアンケート結果をもとに、もう一度大学模擬講義を振り返ってみましょう。

事後アンケートの結果から

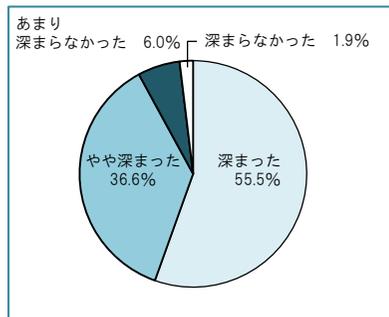
まず「大学で行われる講義についての理解」については理解が「深まった」56%、「やや深まった」37%と、約93%の生徒が肯定的な回答をしています(グラフ1)。講師の先生の中には高校生にわかりやすい形に講義を若干変更された先生や、飽きないようにグループ討議をふんだんにいれてくださった先生もいらっしゃいましたが、「大学での講義」をそのまま実体験してもらおうと、あえていつもの形を崩さず難解な講義をされた先生もいらっしゃいました。ですがいずれも三鷹生の知的好奇心をくすぐるには十分だったようで「講義は難しかったが、この世界を研究していくと、いろいろなことが理解できるのだとわかった」「今まで覚えてきた知識はほんの一部とわかった。ここまで深い話になるとは思わなかった」という感想が見られました。

グラフ2は「講義内容への興味と理解」についての感想ですが「興味を持ち理解もできた」は67%で過半数となっている一方、「興味は持てたが理解は△」は12%、「理解したが興味は△」が18%となっています。前段でも述べたとおり、現段階での理解が十分でなくても、自分の好奇心をくすぐる「何か」と出会うことが大切です。少なくとも8割弱の生徒が自分の興味を持てる分野の講義に出会えたことは幸運だったといえるのではないのでしょうか。「理解できなかった」と答えた生徒は4年生が多かったようですが、4年生はこれからもオープンキャンパスなどの機会も多くあり、来年も大学模擬講義に参加できますので、今度はぜひ異なる分野の講義にトライしてみてください。また新しい視野が開けることでしょう。

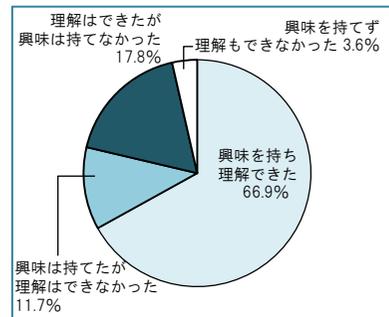
グラフ3は「今回の講義が進路を決める上で参考になりましたか」に対する回答で、こちらは「参考になった」50%、「やや参考になった」が38%と、合計約9割弱の生徒がなんらかの影響を回答しています。

「参考になった」という生徒の理由としては「漠然としていた進路希望だったが、今回の講義でその意志が固まった」「複数の進路で迷っていたが比べる材料になった」「新たな視点で学ぶことができた一方で少し自分が思っていた学びと違う部分もあり、専攻分野に再考の必要性を感じた」など多数の意見がありました。また「この分野が自分の求めているものではないことがわかって参考になった」と回答した生徒もいました。これも一つの収穫と言えるでしょう。

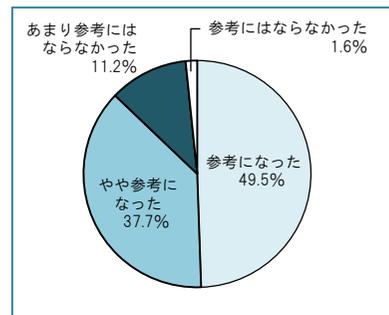
グラフ1 大学で行われる講義についての理解



グラフ2 講義内容への興味と理解



グラフ3 進路選択の参考になったか



学問する醍醐味を体感し、進路実現に結びつける

大学は学問をするところです。未知の事柄を探究し、解き明かしていく場です。文系理系にかかわらず、一つの事柄を掘り下げていくと、今まで気づかなかった広くて深い世界があることに驚かされます。今回の講義から、そんなワクワクする学問現場を感じる事ができたでしょうか。基礎事項はとても大切なことです。身に着けなければなりません。けれども毎日の勉強に追われ、既知の事柄を効率的に頭に入れていくことばかりに腐心してはいませんか？時には視線を変えて、大学で学問している自分を想像してみてください。

4年生にとって初めてとなる今回の模擬講義は、高度な内容であったり、専門性が高かったりと驚くことも多かったのではないのでしょうか。自分の実力不足を感じた人もいたかも知れません。「講義内容が難しく、これだけで大学の講義全般の参考にはならないと感じた」という意見もありましたが、難しいからこそ、探究につながるのです。そして、来年はもっともっと理解が進むと思います。楽しみです。

2度目の受講となる5年生は、自分の進路を確かめる良い材料になったことと思います。学部や学科の名前が同じであっても、そこで研究されている内容は全く異なることが沢山あります。

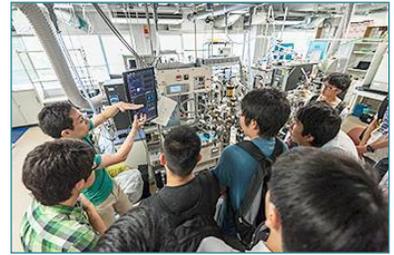
裏表びっしり書いた講義記録や感想・アンケートを見せていただくと三鷹生がいかに進路について真面目に考え、日々の学習に前向きに取り組んでいるのが感じられます。毎年皆さんのために多くの大学から先生方においでいただいておりますが、どの先生も三鷹生の進路選択を決めるお手伝いを、と快く参加いただいております。二日間、16講座という制限があり、なかなか希望どおりの講座がないという人もいるかもしれませんが、せっかくの機会ですからそれを最大限に生かし、今後の進路選択をしていって欲しいと思います。今回の皆さんの感想をいくつか掲載します。

「解釈によって条文の意味が変わってくることは面白いと感じた。『正解』のない問いに向かって考えることは面白かった。(法学4年)」「同じ議題を与えられているのに意見が驚くほど分かれたことがとても面白かった。法律の世界は広く個々の解釈によって適用範囲が変わってくるのが不思議でした。(法学5年)」「流体力学、めっちゃ難しいなと思った。でも、原理や実験から予想したり考えたりするのは面白かった。(機械工学4年)」「流体力学を勉強することで動く物体にかかる力を知ることができた。流体力学を応用することでどんな新しい物を発明できるかが楽しみだ。(機械工学5年)」「とても興味の持てる内容だった。似ている魚から別の魚をつくることのできるのに驚いた。(海洋生物学4年)」「大学でさらに発展した難しいことを研究していると思っていたが、高校の内容の発展で学べることが多く、理解できる内容も多かったので、今からの深い学習が大切だと思った。(海洋生物学5年)」「マーケティング・マネジメント分野の講義かと思ったが、ライフスタイル・マネジメントという公共経営学の話がとても新鮮だった。私は会社のマネジメントの仕方など具体的なことに興味があるので、オープンキャンパスなどで模擬講義を受けたいと感じた。(経営学4年)」「先生の目がきらきらして、受けているこちらも楽しかった。(歴史学4年)」「普段の授業では受けたことのない範囲、観点の講義が受けられて興味深く面白かった。『知識はそれだけでは役に立たないが、無ければ物事を考えられない』との言葉が印象に残りました。(歴史学5年)」「今まで知らなかったデザインの仕事があったのを教えてもらい面白かった。改めて美大に行ってみたいと思った。(芸術学5年)」

「大学」レベルの講義に触れることで、「大学」で学問をすることへの理解や精緻な進路実現への意識が高まった人も多かったと思います。学部や学科の名前だけでは、いったい何が学べるのか、どんな研究がなされているのか、どんな職業につながるのかなど、不明なことも多いのが現実です。今回の講義で課題と考えた部分は、学校のみならずさまざまなチャンネルを使って、自ら情報を得てほしいと考えています。

受験勉強もそうですが、最後は自分で学ぶ姿勢を確立しなければなりません。誰かの敷いたルールに乗っかった勉強に留まっている限り、難関大学の合格は近づいてきません。

自分の進路実現を他者に委ねる訳にはいきません。生徒のみなさんが、自らの手で進むべき路を発見することを強く願っています。



オープンキャンパスは「生の大学」を体験する絶好のチャンス。研究室見学や体験授業があったら、積極的に参加して来よう。(写真は、東京工業大オープンキャンパス)

